

風雪に耐えて春の訪れを待つ

大垣市日新地区民生・児童委員協議会

大垣市について

大垣市は、岐阜県の濃尾平野北西部に位置し、古くから東西交通の要衝として、経済・文化の交流点として栄えてきた西濃圏域にある都市です。自噴地帯にあり、古くから「水の都」と呼ばれ、その豊富で良質な地下水を利用し、産業都市として発展を遂げてきました。現在も市内各所に自噴井があり、水と緑があふれています。令和3年7月31日現在、人口16万134人、67,940世帯が暮らしています。

本市民生・児童委員協議会は、19地区の単位民児協があり、民生委員・児童委員359名（うち主任児童委員38名）で構成されています。

日新地区民生・児童委員協議会について

日新地区民生・児童委員協議会は、総勢11名（うち主任児童委員2名）で活動しています。大変小さな協議会ですが、メンバー一人一人の顔がよく見え、意見を戦わせながらも全体として常にまとまりの良い活動をしていると自負しています。

私たちの協議会は、伝統的に研修や自己啓発に熱心に取り組んでいます。大きく分けて三つの柱を建てて取り組みを行っています。一つは県や市の出前講座を活用して、知識の習得に努めることです。特殊詐欺な

どの消費生活問題、成年後見制度、介護保険制度、認知症についての講座などを受講しました。二つ目は、実際に施設を見学するという視点です。特別支援学校を訪問し、職業教育の現場を見学する、新築の幼稚園、新設の市子育て総合支援センターを視察するなどしました。三つ目は、奉仕体験をすることです。長年障がい福祉サービス事業を行う施設で、そこに通う障がいのある方たちと同じ労働作業を、同じ場所で体験しています。そこで得られる肌感覚は、座学とは全く異なる貴重なものであると思っています。

残念ながら、長く続くコロナ禍の中で、これまでと同様の研修を行うことは難しく、私たちは地方公共団体等が作成し、YouTube上で公式にアップロードされている動画を教材として研修を行う試みをしています。

力を注いでいる活動について

私たちの協議会にとってビッグイベントになるのが、「高齢者の方を囲む会」の開催と、「歳末友愛訪問事業」の実施です。

「高齢者の方を囲む会」は、ひとり暮らしの高齢者の方々を中心に招待する昼食会です。日新地区社会福祉推進協議会の主催事業ですが、民生委員・児童委員が主体的に企画、実施をします。参加者は来賓を含め

数十人規模で毎年開催しています。提供する弁当は民生委員・児童委員が献立を作成し、食材集め、調理から配膳まで行う大仕事で、数十食の弁当の配膳光景は壮観です。会では、百歳になられた方の挨拶があったり、余興があったりと和気あいあいの雰囲気の中でひと時を楽しんでいただいている催しです。この企画も昨年は実施できず、全ての対象者に慰問品を配布する事業に代えました。

「歳末友愛訪問事業」は、年末に七十七歳以上のひとり暮らし高齢者の方々を中心に、民生委員・児童委員が慰問品を持って訪問する事業ですが、三人程の対象者には地元小学校の児童が数人ずつ同席するのが特色です。小学生はけん玉など特技を披露したりして、双方がこの特別な交流を楽しんでいます。昨年は小学生の訪問はできませんでしたが、全



高齢者の方を囲む会(大垣市日新地区センター)



歳末友愛訪問事業(訪問先)

ての対象者一人一人に児童たちが手紙を書いてくれました。児童たちの思いを私たちは届けることができました。

結びに変えて

歳末友愛訪問事業（訪問先）新型コロナウイルス感染症防止対策のため、民生委員・児童委員活動も大きな制約を受け、十分な活動ができていないと言えません。手を取り合う自治会活動等も同様であり、これまで先人たちが創り上げ、維持してきた諸活動がコロナ禍を理由に見直されることが増えていきます。新型コロナウイルスは難敵です。民生委員・児童委員活動の具体的な取り組みに知恵を傾けるだけでは足りず、地域福祉の根幹を支える仕組みの維持、発展を考え、具体的な行動を紡ぎだすことが試されているのだと思います。